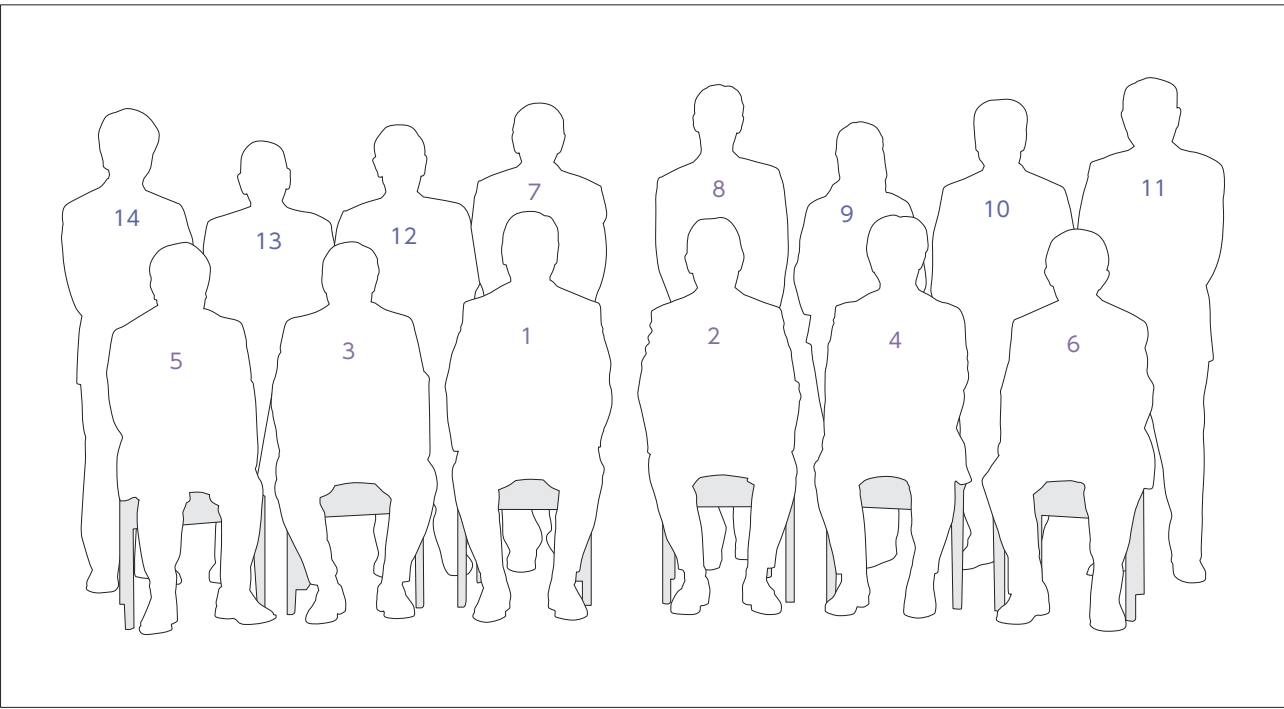


役員紹介 (2021年6月29日現在)



社内役員

取締役

- 1

関根 福一

取締役会長
- 2

諸橋 央典

代表取締役
取締役社長
- 3

大西 利彦

代表取締役
取締役専務執行役員
不動産事業室、セメント営業管理部、国際部、
物流部、建材事業部 各担当
- 4

土井 良治

代表取締役
取締役専務執行役員
生産技術部、設備部、
サステナビリティ推進室、鉱産品事業部、
環境事業部、セメント・コンクリート研究所
各担当
- 5

小西 幹郎

取締役専務執行役員
知的財産部、光電子事業部、新材料事業部、
新規技術研究所、船橋事務所 各担当
- 6

関本 正毅

取締役常務執行役員
総務部、法務室、企画部、管理部、
資材部 各担当

監査役

- 7

伊藤 要

監査役（常勤）
- 8

高瀬 芳章

監査役（常勤）

社外役員

取締役

- 9

牧野 光子

社外取締役

1993年 4 月

日本放送協会静岡放送局
契約キャスター

2000年10月

静岡放送株式会社
(SBS静岡放送)
契約リポーター

2009年 4 月

フリーアナウンサー
(現在に至る。)

2018年 6 月

当社取締役（現在に至る。)
- 10

稲川 龍也

社外取締役

1983年 4 月

検事任官

2016年 9 月

最高検察庁公安部長

2017年 3 月

高松高等検察庁検事長

2018年 1 月

広島高等検察庁検事長

2019年11月

弁護士登録、
高橋総合法律事務所入所
(現在に至る。)

2020年 6 月

富士フィルムホールディングス
株式会社 社外監査役
(現在に至る。)

2021年 6 月

当社取締役（現在に至る。)
- 11

森戸 義美

社外取締役

1974年 4 月

株式会社関電工入社

2013年 7 月

同社常務執行役員、
神奈川支店長

2014年 6 月

同社取締役常務執行役員

2015年 6 月

同社代表取締役

2015年 6 月

同社取締役副社長

2016年 6 月

同社取締役社長 社長執行役員

2020年 6 月

同社取締役副会長

2021年 6 月

当社取締役（現在に至る。)

監査役

- 12

保坂 庄司

社外監査役

1969年 4 月

三井物産株式会社入社

1994年 6 月

MITSUMI CHILE LTDA. 社長

1998年 8 月

株式会社一冷
(現プライフーズ株式会社)
取締役社長

2002年10月

三井物産(株) 検査役

2005年 6 月

三井石油開発株式会社
監査役

2009年 6 月

同社監査役退任

2010年 6 月

当社監査役（現在に至る。)
- 13

鈴木 和男

社外監査役

1973年 1 月

監査法人太田哲三事務所
(現EY新日本有限責任監査
法人) 入所

1977年 3 月

公認会計士登録
(現在に至る。)

1995年 5 月

同監査法人代表社員

2004年 5 月

同監査法人常任理事

2008年 5 月

同監査法人経営専務理事

2008年 9 月

同監査法人
シニア・アドバイザー

2009年 7 月

公認会計士鈴木和男事務所
開設（現在に至る。)

2010年 6 月

当社監査役（現在に至る。)
- 14

三井 拓

社外監査役

2012年12月

弁護士登録（現在に至る。)

2012年12月

井上晴孝法律事務所
(現井上・桜井法律事務所)
入所

2015年12月

三井拓法律事務所開設
(現在に至る。)

2020年 6 月

当社監査役（現在に至る。)

社外取締役メッセージ



牧野 光子

当社を支えて下さっている皆さま、社外取締役として4年目を迎えました牧野光子です。今期は役員構成が大きく変わる「変革の年」です。予想以上に長引くコロナ禍、そしてアフターコロナをどう乗り越えていくか、諸橋新社長率いる新体制のもと、私自身も気持ち新たに再スタートをきたいと思えます。取締役会はさまざまな経験を持つ役員で構成され、これまでも活発な議論がなされてきました。特に昨年度は新型コロナウイルスの影響に加え、世界情勢に大きく左右される事案がいくつか発生したり、社員の意識改革に一石を投じるような事にも直面し、かなり厳しい意見も飛び交いました。しかしこうした事こそが当社を成長させ、より強固にしていくプロセスだと確信いたしました。この度新たに二人の社外取締役を迎え三人体制となる事、また以前から希望していた経営に携わってこられた方にも加わっていただく事により、非常に心強くさらに議論が深まる事を期待しています。

私の役割としては唯一の女性として主にソフト面、社員一人ひとりの心身の健康、安全、働き方、女性活躍などについてさらに言及する事が必要と考えます。取締役会だけでなく社員の現場での様子を伺ったり、女性社員に直接話しを聞く機会を設けていただくなど社内の状況に理解を深めると同時に、独立した第三者の「俯瞰」の目で物事を見るように心がけています。取締役会で、素朴に疑問に感じた事を質問したところ、後になって二人の役員に「改めて気づかされた」と言っていた事があり、社外役員のいる意義が感じられました。これからも「着眼大局・着手小局」を意識して取り組んでまいります。



稲川 龍也

住友大阪セメント全てのステークホルダーの皆さま、社外取締役の稲川龍也です。本年6月に就任したばかりですが、長年検察官を務めその後弁護士や他社の社外監査役をしている経験・知見を基盤に、当社の強固なガバナンス体制の構築とコンプライアンス経営の徹底について独立・公正な立場で積極的に関与していく事が私の役割と思っています。現在のウイズコロナ社会のように将来が不確実な時代においては、企業経営にはリスクテイクが不可欠ですが、それを実現するには、内部統制システムの充実に加え多種多様なバックグラウンドを持ったメンバーで構成される取締役会における自由闊達な意見交換と意思決定システムが重要と考えており、その中で自己の役割を果たしつつ少しでも攻めのガバナンスに貢献したいと思っています。セメント事業は、道路、橋梁、港湾、空港、ダム、堤防など社会インフラの土台を支えつつ多くの災害から国民を守ってくれるもので、安全・安心な社会実現になくてはならない事業です。当社では、この社会的課題に貢献すべくセメント関連事業を維持・発展させつつ、脱炭素と環境保護の観点から災害廃棄物を含む産業廃棄物のリサイクルの徹底、低炭素製品の開発、バイオマス燃料への切り替えなどに加え、現在サステナブル対策委員会を立ち上げ、さまざまなカーボンニュートラルの取り組みを実施しようとしています。セメント事業を取り巻く環境は厳しい状況ではありますが、強靱な国土づくりへの貢献とカーボンニュートラルを両立させた先に、セメントの底力を再認識する時代が訪れる事を期待しています。



森戸 義美

今年度より社外取締役に就任いたしました森戸義美でございます。少子高齢化を含め成熟期を迎えようとしている我が国では、さまざまな社会インフラ施設が老朽化する一方で、地球温暖化の影響もあって自然災害の甚大化も顕著になってきています。当社は創業以来、長い歴史の中で社会インフラ整備には欠かす事のできないセメント供給を担ってまいりました。今後将来においても安全・安心な社会を確保する為引き続き社会の要請に応えていかなければなりません。また、最近のコロナ禍とも相まって社会は大きく変わろうとしており、このような変化への要請にもスピード感を持って応えていかなければなりません。私は、今まで電気や通信といった瞬断も許されない社会インフラの建設・保守を営む企業で、代表取締役を含めて取締役に7年間就任してまいりましたが、その経験や知見が当社取締役会の活性化に寄与し、結果として当社が将来にわたり社会のお役にたてる企業であり続けられるよう努力してまいります。

社外監査役メッセージ



保坂 庄司

社外監査役は取締役の職務執行の監査に当たり、第三者的立場から広い視野と知見を活かして的確な助言と指摘をする事が求められています。私は総合商社の営業畑を歩み、海外拠点などの経営を担った後、検査役と資源開発会社監査役を務め、コーポレートガバナンスおよびリスクマネジメントなどに深く関わってまいりました。当社取締役会においては、これら事業経営や監査などの実体験で得た知見や視点を踏まえ独立の立場から発言し、議論の活性化や実効性の向上に資するよう努めております。中でも経営判断の原則にかなった審議が行われているか、特に的確な事実認識の為に十分な関連資料が提示され合理的な意思決定を可能にしているかを注視しております。

当社の経営には、創業110年超の社歴とともに、基礎資材を生産し循環型社会の一翼を担う社会貢献企業としての自負と、社員を大切にす家族意識や性善説尊重の企業文化が見られます。これらを健全に継承していく為にも、全社的なコンプライアンス意識の徹底が必要不可欠であり、経営の透明性と説明責任、円滑なコミュニケーションによる役職員の相互信頼と明るい職場環境形成へのたゆめぬ努力が肝要と考えます。

当社ではセメント事業と高機能品事業の双方で先進技術の開発や導入が盛んです。目下の大命題である脱炭素社会実現への取り組みや懸案の国際関連事業の推進にも技術力を動員して果敢に挑戦し、持続的成長や企業価値向上を図っていくものと期待しております。



鈴木 和男

近年コーポレートガバナンス強化の要請が高まっています。ガバナンスが効いていない状態では企業内の監視体制が行き渡らず、経営や業務プロセスにおいて不正や不祥事が発生するリスクが高まります。

社外監査役として会社の健全な運営と持続的な発展に寄与できるよう、公認会計士としての経験を活かし、就任以来当社のガバナンスの実効性の担保とその強化が私の重要な役割と考え、取締役会等で意見を述べてまいりました。

ガバナンスの実効性を担保する為には、さまざまな側面から検討する事が必要ですが、組織的には内部統制の整備運用、特に相互牽制制度と早期発見システムの構築は重要です。人的な面では構成員の意識の改革です。醸成された社内常識、文書化されていないが業務プロセスに影響を与えている慣習それらは守るべき伝統か、変化が必要な事かと考え、取り組む姿勢が重要です。長い時間をかけて整備された制度、業務もそれが現在でも十分に通用するものもあれば、会社を取り巻く社会や環境の変化に対応する為手直しや変革が必要なものがあるかもしれません。ガバナンスの進化が会社の発展の為であると信じて、日常行われている業務の意味を問い続ける意識を役職員の皆さんと持ち続けたいと思います。全てが一朝一夕に解決するわけではありませんが当社のガバナンスは組織体制としても役職員の意識でも着実に強化・向上していると思っています。



三井 拓

住友大阪セメント株式会社の社外監査役に就任して2年目になりました三井拓です。就任した初年度は、まさに新型コロナウイルス感染症が流行しはじめた中でしたが、新型コロナウイルス感染症対応を含めた当社の各種課題について、監査役として、取締役会・監査役会等での議論に参加してまいりました。

私は、弁護士立場で、これまで各種会社の法務問題等に関与するほか、会社や従業員関係の問題についての執筆等もしてきました。そのような経験・知見から、コンプライアンス経営の確保等に関して特に意見を述べさせていただく機会が多くあります。当社の社外監査役としては、ほかに、会社経営の経験者、公認会計士もおられ、社内の事情に精通している社内監査役とともに、監査役会等で忌憚のない意見交換をする事により、多角的な視点からの監査の実が挙がるものと考えております。

当社は、セメント事業を祖業として、その中で培った技術・能力を活かして高機能品事業等にも取り組んでおります。昨年の新型コロナウイルス感染症流行の中でも増益を成し遂げましたが、将来的にはセメント事業の国内需要の大幅な伸びが期待しにくい中で、新たな社長のもと、今後を見据えた変革を遂げようとしております。私も、会社を支える一員として、株主はじめステークホルダーの皆さまの負託に応えてまいりたいと思います。